平成２５年度　第３回入船地区学校統合懇談会議事要旨

１　**開催日時**　　平成２６年３月１２日（水）　午前１０時３０分から１１時３０分

２　**開催場所**　　浦安市消防本部大会議室

３　**出 席 者**

（委員）

学校統合アドバイザー　小松郁夫氏（常葉大学大学院教授）、
入船中学校長　緒方利昭委員（会長）、入船南小学校長　鞠山誠人委員（副会長）、
入船北小学校長　手塚和真委員、入船北小学校 PTA 会長　山口晶子委員、
入船北小学校前 PTA 会長　新田裕子委員、入船南小学校 PTA 会長　原口貴彰委員、
入船南小学校 PTA 副会長　大下玉美委員、入船中学校 PTA 副会長　中村智子委員、
入船中学校評議員　坂上ますみ委員、教育総務部長　米本慎一、
教育総務部参事　山髙智美、教育総務部次長　角田義弘、
教育総務部次長（教育政策課長）鈴木忠吉

（事務局）

学務課長　佐藤伸彦、学務課長補佐　鈴木孝一、教育政策課長補佐　船橋紀美江
教育政策課主査　佐藤克文

４　**議　　題**

〇これまでの経緯

・入船地区学校統合に伴う施設の改修
・学校統合に向けた準備

〇新しい小学校における「魅力ある学校づくり」について

・情報交換
　学校統合に向けた学校間の連携、閉校に伴う行事
・新しい小学校の名称について

５　**資　　料**

（当日配付）

・学校施設改修に関する近隣住民への説明資料及び図面
・改修後のイメージ図
・平成２６年度の予定

６　会議経過

（１）事務局の説明

〇学校施設の改修について

平成２６年度には入船南小学校に２教室×３階建ての増築棟を建設する。また、現入船南小学校と入船中学校をつなぐ渡り廊下を設置する。渡り廊下は入船中学校の技術棟を貫通することとなるため技術棟の部分的な改修も行う。

さらには２７年度の４月にきれいな学校で子どもたちを迎え入れたいことから、２６年度中に入船南小学校と入船中学校の外壁の改修工事を行う。校舎の色は、小中連携・一貫教育の視点から両校の色に一体感を持たせつつ、小中学校の区別化を図った。

２７年度は、廊下や階段の共用部の改修に加え、教室の床・壁・天井・照明の改修を行う。

教育内容については、現在、小中連携・一貫教育のもと、理科教育の充実を図っており、統合後も、学力向上の一環として引き続き理科教育の充実を図っていきます。

また、渡り廊下を有効に活用し、小中学校の児童生徒の学びの交流を図っていきたいと考えている。具体的には、小学校の子どもたちが中学校の実験道具を使った授業や小中学校の教職員のティームティーチングによる授業の展開など特色ある教育活動の展開を考えている。

〇学校統合に向けた準備について

現在、入船北小学校と入船南小学校の教頭先生、教務主任の先生が中心となって、２６年度中に揃えるところは揃えていく方向ですりあわせや情報交換等を行っている。

２６年度は統合の前の年であることから、「連携推進部会」が中心となって、新しい小学校の教育課程や生活時程、委員会やクラブ等について検討する。これを準備委員会に諮り、新しい小学校の校長先生に提案する。懇談会の中でも随時、ご意見を伺いながら進めていきたい。

「連携推進部会」を機能させることによって、２７年度の４月に滞りなく新しい小学校が開校できるようにする。

懇談会については、次年度も３回の開催を予定している。主な内容は、新しい学校の魅力ある学校づくりについてである。学校施設の改修工事の進捗や閉校に伴う学校行事等の開催についてもご報告する。

委員

学校施設の改修について、足場はどれくらいの期間組むことになるのか。子どもたちへの影響はないのか。

事務局

工事は基本的には、夏季休業中に工事を行い、若干２学期にかかる予定である。

１１月ごろには足場を解体する計画である。

委員

内装について、化学物質にアレルギーを起こす子どももいるし、突然アレルギーを起こす子どももいるので材料等について業者と十分相談して行ってほしい。

委員

施設担当課にきちんと伝え、対応する。

委員

小中学校の間の通路はどうなるのか。

事務局

学校の敷地内になるが、これまで通り、住民の皆様の通行は可能である。

渡り廊下に屋根をつけて、子どもたちは上履きをはきかえないで移動できるようにする。

会長

ほかによろしいでしょうか。それでは次に新しい小学校における魅力ある学校づくりについてここでは委員の皆様から情報をいただきながら、進めていきます。

まずは入船北小学校と入船南小学校の交流について、入船南小学校の鞠山校長先生いかがでしょうか。

○情報交換

委員

入船北小学校と入船南小学校の交流については今年度、全校遠足に始まりいろいろな教科や総合的な学習時間等で進めてきた。

２月１８日に雅楽鑑賞教室を行った。昨年度は入船南小学校単独で行ったが、なかなか見られるものでないものであることと、中学校に行っても学習する内容なので、小学校で同じ経験をして中学校に進学することが望ましいと考え、入船北小学校と美浜北小学校、美浜南小学校も一緒に行った。

保護者の方にも参加していただき、雅楽の歴史についてお話を聞いたり、打楽器を体験したりととても良い経験になった。

委員

平成２６年度も全校遠足を５月２日に行い、入船北小学校、入船南小学校の交流をする。保護者も交流の場を持ちたいということで現在、検討している。

閉校行事については、まだ決定ではないが、鞠山校長と相談し、両校とも３月７日土曜日に６年生を送る会を午前中、午後に閉校行事を行いたいと考えている。

それ以外にも子どもの交流が大切なので、各学年で１回以上は交流を行っていく方向で進めている。

委員

昨年の１１月から２月まで入船英語教室（IEC）を実施した。各学校の学校支援コーディネーターを中心に活動した。講師は入船地区にお住いの新井先生。国連大学の講師をされていたこともあり、英語を楽しむという視点から講義をしていただいた。

これからも支援協議会を中心に続けていきたい。

３月２３日に地域文化祭を行う。昨年度は液状化の工事のため中止となったが、１１年前から行ってきた行事であり今年は３月に行う。高洲中学校との分離もあり、地域の方々も盛り上がっている。

明日の卒業式を控え、１，２年生が分離に向けて学校を盛り上げていくんだという意識が高まり、立派な態度を見せてくれている。

○新しい小学校の名称について

事務局

浦安市においては初めて統合に伴う新しい小学校の開校であるため、学校の名称につい、どのように決めていくのかという点も含めて懇談会でご意見をいただきたい。

委員

「入船小学校」だろうと思っていた。

会長

これまでの名称の決め方や他市の事例等はどうか。

事務局

市立の小学校なので、市の条例で決める。これまでは、市議会に出す案は教育委員会が決めていた。

高洲中学校の例では、これまでの新設校の名称の決め方の経緯から、学校の所在地の字と学区が高洲全域であることから高洲中学校とした。

さかのぼると小学校では昭和 54 年に開校した富岡小学校からは学校の所在地の字を名

称に使っており、同じ字に複数の学校がある場合は、北と南というように方位で区別をつけている。中学校でも入船中学校からは字を使っています。

委員
「入船小学校」以外にないような気がするが。

会長
入船中学校の校長の立場から申し上げると、小中連携・一貫教育を進めていくうえでも隣にある小学校が「入船小学校」だといいと思う。

委員
八千代市の例では、八千代台東小学校と八千代台第 2 小学校が統合したとき、子どもや地域にアンケートを取ったようだ。結果的には、八千代台東小学校になった。
決め方としては、法的には議会を通すがその前に皆様のご意見を伺いたいと思っていた。ここで決めるのではなく、皆さんのご意見をいただき、今回の懇談会の意見を定例教育委員会に提案したい。

会長
新しい小学校の名称については本日のご意見を教育委員会で集約して、決定に関しては教育委員会にお任せしたいと思うがよろしいか。

委員
よい。

〇学校統合アドバイザーの助言
小松郁夫先生
きのう、京都に行って時間があったので「京都市学校博物館」に行ってきた。
京都は東京遷都を機に地域の人がお金と知恵を出し合って、明治 2 年に１年間で６４の番組小学校を作った。地域で地域の子どもたちの教育の条件を整備し、寄付を集めて融資をし、その利子で学校運営費用を賄ったそうだ。「竈金」といって竈の数でお金を出し合って、大人のためにも学校を作るという意識だったようだ。
学校が地域の皆さんから愛されたり支持されたりしなければならないものだとあらためて感じた。
入船地区の学校統合も渡り廊下ができるというだけの話から、校舎もきれいになるし、増築棟もできると聞いてよかったなあと思っている。外枠はだいぶかたまってきたが、具体的な中身の話についても小中学校で話し合っているようだ。このように小中学校が

連携していることにより、入船地区の小中連携・一貫教育ができるのだと思う。

今、どこでも小中連携や小中一貫というが、本当は小中連携ではなく、この地域の義務教育をどう創造するかという考え方のほうがより本質的だろう。小中学校という別々の学校教育を無理やりくっつけるというのではなく、この地域で生まれ育つ子どもたちを１５歳までの間に地域と学校とで育てていくというイメージをもつとよい。極端に言えば、私立に行く子も含めて、地域行事などに参加させながら地域を支えていくとよいと思っている。

義務教育とは大人になるための基礎基本を育てるということである。そういう面において全国でいろいろなことを行っているが、大きく分けると学力や生活の面と行事の両方の面があり、地域の行事に子どもたちが参加するということは一番、目に見えて入っていきやすい。

来年の４月に新しくなったときに統合校と隣の中学校とで教育の質を上げ、高等学校に進学できる学力や生活習慣を身につけさせておくことが大切である。それは子どもたちのためであるし、現在、統合に不安を持っている方への答えにもなっていくものと思う。

今後はカリキュラムや指導方法、授業改善を通して先生たちが取り組んでいただきたい。

名前については、一般的には字をつけるのが無難で、私も入船小学校という名前には大賛成である。看板が変わると気持ちも活動も変わり、何より子どもたちが誇りを持ってこの小学校・中学校を卒業できてよかったと思える学校にしていきたい。統計的には浦安の小学校の数が減ることになるが、中身としてはレベルアップさせたい。

学校というのは変わることに慎重になるが、これを機にぜひ、日頃やりたかった教育活動を取り入れるなどカリキュラムの見直し等を行ってほしい。それがほかの小中学校にも影響を与えていくだろう。先生方にとっても教師としてやりたい教育を行うよい機会になるだろう。

学校の規模が適正となり、教育活動のさらなる充実が図られることが楽しみだ。